

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月12日
【四半期会計期間】	第28期第2四半期（自平成24年7月1日至平成24年9月30日）
【会社名】	株式会社データ・アプリケーション
【英訳名】	Data Applications Company, Limited
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長執行役員 橋本 慶太
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋人形町一丁目3番8号
【電話番号】	(03)5640-8540(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役常務執行役員CFO 長井 定一
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋人形町一丁目3番8号
【電話番号】	(03)5640-8540(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役常務執行役員CFO 長井 定一
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第27期 第2四半期 連結累計期間	第28期 第2四半期 連結累計期間	第27期
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年9月30日	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高(千円)	787,672	933,783	1,689,689
経常利益(千円)	137,310	232,097	332,809
四半期(当期)純利益(千円)	88,790	148,503	223,285
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	85,781	142,704	224,031
純資産額(千円)	1,333,450	1,587,423	1,479,476
総資産額(千円)	1,688,827	2,027,170	1,967,292
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	5,663.98	9,399.55	14,226.86
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	5,513.47	9,263.63	13,930.17
自己資本比率(%)	79.0	78.3	75.2
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	125,878	175,198	325,046
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	5,453	4,673	7,322
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	18,686	34,130	11,023
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	1,166,544	1,507,902	1,371,507

回次	第27期 第2四半期 連結会計期間	第28期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成23年7月1日 至平成23年9月30日	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	3,033.35	5,046.49

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、復興関連需要を背景とした緩やかな回復の動きがある一方、世界経済の更なる下振れ等が景気を下押しするリスクとなっており、先行きについては依然として注意が必要な状態が続くものと考えられます。

情報サービス産業においては、システムの災害対応強化の動向やIT投資内容の精査、選別の動向等により、ビジネス向けソフトウェアを含めた産業総売上高は前年同四半期同水準となっております。

この経営環境下、当第2四半期連結累計期間は、当社製品の主要適用分野であるEDI関連業務での問題解決力の強化及び製品やサービスの応用可能な市場への提案力の強化等、販売力の強化に努めてまいりました。

他方、研究開発面では、顧客ニーズの充足及び付加価値の拡大を図るべく、既存ソフトウェア製品の機能強化や次期製品の開発を推進してまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、ソフトウェア売上、メンテナンス売上共に前年同四半期を上回ったこと等により、売上高は933百万円（前年同四半期比18.5%増）となりました。利益面では、売上総利益は745百万円（前年同四半期比19.3%増）、売上総利益率は79.8%となっております。

また、販売費及び一般管理費が515百万円であったことにより、営業利益は229百万円（前年同四半期比72.0%増）、経常利益は232百万円（前年同四半期比69.0%増）となり、税金等調整後の当第2四半期連結累計期間における四半期純利益は148百万円（前年同四半期比67.3%増）となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間で当社のサーバー系ソフトウェア製品は新たに302本を出荷し、累計出荷実績は6,401本に至っております。

当社グループの事業は、データ交換系ミドルウェア等の企業の業務プロセスを支える基盤型ソフトウェア製品等の開発・販売・保守及びこれらソフトウェア製品の導入や運用を支援するサービス等の提供を行う単一セグメントのソフトウェア関連事業であります。なお、売上区分別の状況は次のとおりであります。

ソフトウェア売上

ソフトウェア売上におきましては、主要適用分野であるEDI関連業務において、流通BMS[®]関連システムや災害対策用システム等の販売強化に努めてまいりました。その結果、EAI統合製品等の売上が伸長し、ソフトウェア売上高は419百万円（前年同四半期比18.9%増）となりました。

（注）「流通BMS[®]」は、財団法人流通システム開発センターの登録商標です。

メンテナンス売上

メンテナンス売上は、当社ソフトウェア製品の導入にあたり保守契約を締結し、毎年一定の保守料金をいただき、製品に関するサポートサービスを提供しております。従いまして、このメンテナンス売上は累計導入企業数の増加と共に安定的な収益基盤となっております。

メンテナンス売上高は、継続した保守契約の推進活動等により、471百万円（前年同四半期比14.8%増）となりました。

その他

その他の売上として、ソフトウェア製品販売に付帯する、製品の導入サービス、教育サービス等のサービスの提供や通信機器の販売等があります。これらは、製品の販売に付帯して顧客要望に基づき発生するもので、当該売上高は42百万円（前年同四半期比77.2%増）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前年同四半期から341百万円増加し1,507百万円となりました。なお、前連結会計年度末に比べ136百万円の増加となっております。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた資金は175百万円(前年同四半期は125百万円の獲得)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益232百万円、賞与引当金及び役員賞与引当金の増加44百万円、売上債権の減少78百万円、仕入債務の減少10百万円、未払金の減少102百万円、前受金の増加37百万円、法人税等の支払額103百万円等があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動に使用した資金は4百万円(前年同四半期は5百万円の使用)となりました。内訳は、固定資産の取得による支出1百万円、差入保証金の差入による支出3百万円となっています。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動に使用した資金は34百万円(前年同四半期は18百万円の使用)となりました。内訳は、配当金の支払額34百万円となっています。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、159百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通しに重要な変更はありません。

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの当第2四半期連結会計期間末の財政状態(資本の財源及び資金の流動性について)の分析は、以下のとおりであります。

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の資産の残高は、前連結会計年度末に比べ59百万円増加して2,027百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加136百万円、売掛金の減少78百万円、その他流動資産の増加8百万円、固定資産の減少7百万円によるものです。

(負債)

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ48百万円減少して439百万円となりました。これは、買掛金の減少10百万円、未払法人税等の減少20百万円、前受金の増加37百万円、賞与引当金及び役員賞与引当金の増加44百万円、その他流動負債の減少98百万円によるものです。

(純資産)

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ107百万円増加して1,587百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加113百万円によるものです。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	36,000
計	36,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	17,519	17,519	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	当社は単元株制度 は採用しておりま せん。
計	17,519	17,519		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日	-	17,519	-	394,319	-	304,319

(6) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社アイネス	神奈川県横浜市都筑区牛久保3-9-2	2,200	12.56
橋本 慶太	千葉県流山市	2,080	11.87
武田 好修	東京都江東区	1,060	6.05
株式会社ワイ・ディ・シー	東京都府中市府中町1-9	1,000	5.71
中野 直樹	千葉县市原市	887	5.06
須藤 敏夫	千葉県千葉市美浜区	780	4.45
データ・アプリケーション 社員持株会	東京都中央区日本橋人形町1-3-8	639	3.65
テニック株式会社	東京都渋谷区笹塚2-26-2	445	2.54
木村 正則	神奈川県川崎市高津区	430	2.45
日立ビジネスソリューション 株式会社	神奈川県横浜市西区高島1-1-2	400	2.28
計	-	9,921	56.63

(注) 上記のほか、当社所有の自己株式が1,720株(9.82%)あります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,720	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 15,799	15,799	-
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	17,519	-	-
総株主の議決権	-	15,799	-

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社データ・ アプリケーション	東京都中央区日本橋人形町 一丁目3番8号	1,720	-	1,720	9.82
計	-	1,720	-	1,720	9.82

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,371,507	1,507,902
売掛金	247,131	168,973
仕掛品	637	1,668
その他	62,395	70,641
流動資産合計	1,681,671	1,749,185
固定資産		
有形固定資産	21,085	21,501
無形固定資産	17,292	11,628
投資その他の資産	247,242	244,854
固定資産合計	285,620	277,984
資産合計	1,967,292	2,027,170
負債の部		
流動負債		
買掛金	25,184	15,143
未払法人税等	103,527	82,754
前受金	180,133	217,312
賞与引当金	-	34,954
役員賞与引当金	-	9,135
その他	178,970	80,446
流動負債合計	487,816	439,747
負債合計	487,816	439,747
純資産の部		
株主資本		
資本金	394,319	394,319
資本剰余金	304,319	304,319
利益剰余金	913,334	1,027,080
自己株式	125,536	125,536
株主資本合計	1,486,435	1,600,181
その他の包括利益累計額		
その他の有価証券評価差額金	6,959	12,758
その他の包括利益累計額合計	6,959	12,758
純資産合計	1,479,476	1,587,423
負債純資産合計	1,967,292	2,027,170

(2) 【 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 】

【 四半期連結損益計算書 】

【 第 2 四半期連結累計期間 】

(単位 : 千円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日)
売上高	787,672	933,783
売上原価	163,182	188,693
売上総利益	624,490	745,089
販売費及び一般管理費	491,220	515,899
営業利益	133,269	229,190
営業外収益		
受取利息	131	161
受取配当金	322	368
補助金収入	1,800	-
助成金収入	-	1,274
受取手数料	950	500
その他	1,017	606
営業外収益合計	4,221	2,910
営業外費用	180	2
経常利益	137,310	232,097
税金等調整前四半期純利益	137,310	232,097
法人税等	48,519	83,594
少数株主損益調整前四半期純利益	88,790	148,503
四半期純利益	88,790	148,503

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	88,790	148,503
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	3,009	5,799
その他の包括利益合計	3,009	5,799
四半期包括利益	85,781	142,704
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	85,781	142,704
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	137,310	232,097
減価償却費	9,651	8,534
賞与引当金の増減額(は減少)	32,729	34,954
役員賞与引当金の増減額(は減少)	5,567	9,135
受取利息及び受取配当金	453	529
売上債権の増減額(は増加)	727	78,158
たな卸資産の増減額(は増加)	2,568	1,030
その他の資産の増減額(は増加)	5,084	8,350
仕入債務の増減額(は減少)	3,569	10,041
未払金の増減額(は減少)	77,916	102,897
前受金の増減額(は減少)	27,886	37,178
その他の負債の増減額(は減少)	5,408	1,385
小計	117,416	278,594
利息及び配当金の受取額	453	529
法人税等の支払額	8,351	103,925
法人税等の還付額	16,359	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	125,878	175,198
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	4,081	1,336
無形固定資産の取得による支出	1,372	-
差入保証金の差入による支出	-	3,337
投資活動によるキャッシュ・フロー	5,453	4,673
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	4,464	-
配当金の支払額	23,150	34,130
財務活動によるキャッシュ・フロー	18,686	34,130
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	101,738	136,394
現金及び現金同等物の期首残高	1,064,806	1,371,507
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,166,544	1,507,902

【会計方針の変更等】

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による当第2四半期連結累計期間の損益への影響は軽微であります。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
給料手当	139,696千円	145,056千円
賞与引当金繰入額	13,170千円	13,574千円
役員賞与引当金繰入額	5,567千円	9,135千円
研究開発費	153,081千円	159,607千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
現金及び預金勘定	1,166,544千円	1,507,902千円
現金及び現金同等物	1,166,544千円	1,507,902千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月21日 定時株主総会	普通株式	23,443	1,500	平成23年3月31日	平成23年6月22日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月20日 定時株主総会	普通株式	34,757	2,200	平成24年3月31日	平成24年6月21日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

当社グループは、ソフトウェア関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	5,663円98銭	9,399円55銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	88,790	148,503
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	88,790	148,503
普通株式の期中平均株式数(株)	15,676	15,799
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	5,513円47銭	9,263円63銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	428	232
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月12日

株式会社データ・アプリケーション
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 安藤 見 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大谷 はるみ 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社データ・アプリケーションの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社データ・アプリケーション及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。